

## 高浜原発 3・4 号機の許可について

(阿部委員の発言)

2015.1.21.

今日の高浜原発 3・4 号機の許可に関する答申にあたって、私から何点か付言いたしたく、原子力委員会の 1 委員の意見として原子力規制委員会に報告いただければ幸いです。

1. 高濃縮ウラン・プルトニウムについては、核テロ防止の観点から国際的に関心が高まっており、昨年ハーグ核セキュリティ・サミットで安倍総理から「利用目的のないプルトニウムは持たない」との原則を引き続き堅持し、これを実効性あるものとするため、プルトニウムの回収と利用のバランスを十分に考慮すると表明したところがあります。したがって、関西電力に関しましても使用済燃料の再処理によるプルトニウムの分離にあたってはこのような我が国の基本方針を十分勘案して対処することを期待したく存じます。
2. 今回、関西電力から提出された書類によりますと、「使用済燃料の再処理の委託先の確定は燃料の炉内装荷前までに行い、政府の確認を受けることとする」とありますが、当原子力委員会が「使用済燃料の直接処分を可能とするための取組」をこれまで何度か取り上げ<sup>1</sup>、昨年策定されたエネルギー基本計画においても「幅広い選択肢を確保する観点から、直接処分など代替処分オプションに関する調査・研究を推進する。」との方針を表明するといった最近の状況を考えますと再処理の委託先の確定については将来は柔軟性をもった対応を認めてもよいのではないかと考えます。
3. 最後に、原子力規制委員会の権限・職務は原発等施設の安全性に限定されているわけではなく、安全性を格段に高めたとしてもなお起こるかもしれない万が一の事故に備えて事故対応・避難・救援活動についても考慮することが期待されています。この点、今回審査の対象となった高浜原発に関しては、今後、同じサイトにある高浜 1・2 号機が稼働する場合、さらには若狭湾にある他の原発が稼働する場合についても十分考慮することを望みたく存じます。

---

<sup>1</sup> 平成 26 年 7 月 29 日原子力委員会決定 5 ページ目下段。